



「 命 」

代表 大堀 尚美

先日、電車の中で赤ちゃんが生まれたという衝撃のニュースがありました。赤ちゃんを取り上げてもらったお母さんと、取り上げたお母さんの覚悟、乗客、駅員の皆さんの連携が凄いなと胸が熱くなりました。

赤ちゃんも無事に生まれて本当に良かったです。殺伐とした事件が多い中、人の情を感じる素敵な出来事でした。

人を簡単に傷つけ命さえも奪えるのが人間なら、人を助け生かせるのも人間。どちらの人間になりたいか。

答えは「人や自分を助け、互いに元気や笑顔を与え合える人間になりたい」です。

それにつけても健康で過ごせる一年でありますように。本年も何卒よろしく願いいたします。

ピアサポート研修開催される

平成29年10月25日（水）、長野市若里市民文化ホールにおいて、ピアサポート研修（主催：長野県ピアサポートネットワーク 共催：NPO 法人ポプラの会）が開かれました。ピアサポーターとして活動することを望んでいる方、既にピアサポーターとして活動している方、支援者、家族等、幅広い方々にお集まりいただきました。

今回は、NPO 法人日本障害者協議会（JD）代表、きょうされん専務理事の藤井克徳氏にご講演をお願いしました。テーマは「障害者権利条約と障がいのある私たちの暮らし」。障害者権利条約の日本での批准までの道筋に深くかかわってこられた藤井氏にご講演をお願いした理由は、私達自身が自分達の権利について学ぶ為です。午前は第一部として、藤井氏のご講演をお聴きしました。講演の中で、障がいのある人の支援策の水準をとらえる4つのものさしとして ①障がいのない市民の暮らしぶりとの比較 ②日本と同等の経済力を持つ国の障がい施策との比較 ③過去の支援策水準との比較 ④障がい当事者のニーズとの比較であると述べられました。そして、障害者権利条約の3つの素晴らしさとして ①障がい者問題に関する初の国際的ルールであること～誰が見てもわかる北極星のようなものであること ②作る過程の素晴らしさ～当事者の声を取り入れたこと ③内容の

素晴らしさ～障がいを持った人に特別な権利を付与するという内容ではなく、障がいのない人にとっては当たり前のことが障がいのある人にも平等に保障されることを謳った条約である。「他の者との平等を



藤井克徳氏

基礎として」という言葉が35回も繰り返されることから読み取れるとの大切なお話がありました。権利条約について学ぶと、障がいのある私たちももっと権利について伝えてもよいのだと力づけられます。権利条約の内容が実現されるよう、私たちも一層学びを深め、共に行動していきましょう。

午後はパネルディスカッションを行いました。藤井氏をファシリテーターに、5人のパネリストにご登壇いただきました。それぞれの方々に、障がいと生活のしづらさにどう向き合っているかを語っていただきました。「やりたいという目的意識、やろうとする覚悟から願いの強さが生まれる。(石田勝氏 ピアサポーター・ハートラインまつもと・長野県ピアサポートネットワーク役員)」「子育ての際失明していたことで自力では家から一歩も出られなくなってしまったが、盲導犬を持ちとにかく動いた。(広瀬里枝子氏 ピアカウンセラー・上小地域障害者自立生活支援センター・ウィング)」「育成会で出会ったお母さん方と、障がいを持つ母親同士でなければわからないことを情報交換してきた。(宮尾千恵子氏 家族・長野市手をつなぐ育成会)」「医療現場ではピアサポ-



トはあまり身近なものではない。病院にピアサポートという風穴を開けたい。(三浦典子氏 看護師・保健師・長野県こころの医療センター駒ヶ根)」「当事者自らが問題意識を持って活動していきたい。(大堀尚美氏 長野県ピアサポートネットワーク代表・NPO 法人ポプラの会副会長事務局長)」

それぞれのパネリストに対して、藤井氏からひとりひとりへ思いのこもった言葉が贈られました。石田氏「願う力」、広沢氏「伝えながら運動する」、宮尾氏「障がいがある当事者同士の情報交換」、三浦氏「なんでもやるぞ! 保健師さん」、大堀氏「取り戻している青春」、いずれも印象深い言葉でした。最後に藤井氏より長野県ピアサポートネットワークの皆さんへ「集まろう」「繋がろう」「伝えよう」「動こう」「続けよう」というメッセージをいただきました。困ったことがあったら、2人でも、3人でも集まりましょう。そこから仲間(=ピア)が繋がっていくことと思います。

たくさんの元気と勇気をいただいた研修でした。

アンケートより

★障害者権利条約のすばらしさ。条約を導きの糸として地域での生活をつくっていくことの展望(希望)を持つことができました。(男性・60代以上・家族)
★とても深くて、学びきれない程でした。パネリストの方や藤井先生のお人柄にひかれました。(女性・30代・当事者)
★障害者権利条約というものの存在を知る事が出来、非常に参考になりました。この条約は、是非とも世の中に浸透させていくべきだと思います。私自身、友人に白い目で見られる事もあったので、やはり草の根レベルまで障がい者差別反対の声は届いていないと思います。障がい者と健常者の垣根が無くなります様に。(男性・30代・当事者)
★優生思想は気付けば“当たり前”になっている現代社会。そこに流されることなく立ち向かえる力をつけていきたいと思いました。(女性・30代・支援者)
★権利条約の条文を見て涙が出ました。私が年をとる頃には、こんな社会になってほしい。(女性・30代・当事者)
★障害者権利条約の中身だけではなく、誕生の過程などについても大変分りやすくお話いただきありがとうございます。やまゆり園だけでなく、ナチス時代からの障がい者をめぐる経過についても学ぶことばかりでした。

この条約の理解を深め、障がいのある方々に接する者の一人として、広く議論や学習をしていきたいと思いました。(男性・30代・関係諸機関)
★権利条約がこれからの日本に根付くために、何が出来るのかをまずはよく考えてみたいです。今日から仲間と考えていきます(男性・40代・支援者)。★元気をいただきました。まわりに対しても、もやもやしたものを、ふっきりたいと!でも、まずは自分の事だと、気づき、また一歩ずつ進んでいければと思います。(女性・60歳以上・支援者)
★これから支援者として働きます。今回の研修会を通して、様々な立場の方が一つの星になってよりよい社会になったらいいなと思いました。当事者の方がその人らしく生きていけるよう陰ながら支援できるような気持ちを持ち続けられるように、ものさしをしっかりと持ちたいと思いました。このような機会に出会えたことに感謝いたします。(女性・20代・支援者)
★権利条約のお話は何度聞いても、新しい発見があります。自分の中でしっかりかみしめ、他の人に伝えていきたいと思います。パネリストの方、一人ひとりのお話もとても大変なお話でした。(男性・20代・支援者)
★夫がアスペルガー症候群で、何か知識や情報がほしいなと思って参加しました。藤井先生、パネリストのみなさんからたくさん元気をもらいました。